

令和元年度 ウィークエンド青少年セミナー 実施報告⑤

実施日：令和元年 12 月 21 日（土）

令和元年度ウィークエンド青少年セミナーの最終回が、宇都宮大学陽東キャンパスで行われました。最初に、総合教育センターの開放事業「学びの杜の冬休み～ふれる・つくる・考える～」で行った「とちっ子 あそび隊」について、企画から準備、運営までの演習全体のふりかえりをしました。次に、事例発表や講話をととして、「まちづくり活動」や「社会教育」、「社会教育主事」について学びました。

午後は、実際に自分たちでメンタルマップを作りながら、地図を活用した「まちづくりの視点」を学びました。

研修の締めくくりとなる閉講式では、栃木県総合教育センターからは高野嘉子生涯学習部長が、宇都宮大学からは地域デザイン科学部の若園雄志郎准教授が参加し、受講者一人一人に修了証が手渡され、激励の挨拶がありました。

演習「自分たちも何かやってみよう！復習編」

前回の研修で、学びを意識した子ども向け企画の運営を行いました。これをととして気付いたことなどを班ごとに議論し、まとめました。どの班も活発な意見交換が行われました。全体共有の時間では、「事前準備の大切さに気付いた」、「実際の活動では臨機応変な対応が必要とされた」などの意見が出ました。



事例発表「さあ、まちづくり活動をはじめよう」

事例発表として大学生からは、学部での学びなどを中心に「まちづくり活動」について紹介がありました。高校生の頃から地域活動を始めていた経験や、大学での「まちづくり」に関する授業などの内容でした。受講者は、今後の学校（学生）生活や進路を決める時にヒントにしていきたいと感じたようでした。



講話「社会教育主事の業務、社会教育主事の資格を生かした仕事の仕方」

総合教育センター職員から、社会教育主事としての仕事に関する講話がありました。まず、社会教育について確認し、それを推進する社会教育主事の業務や役割について、公民館職員の事例も交えた話がありました。受講者は、まちづくりは自分のやる気次第で様々なことができ、それは、学生でも社会教育主事でも変わらないということを感じたようでした。



講話・演習「若者には地域を変える力がある！」

宇都宮大学 基盤教育センター 特任助教 石井 和也 氏

地図から読み取れる情報や受ける印象などについて、多くの事例を紹介していただきました。その上で、人毎にとらえ方が異なるメンタルマップを活用した「まちづくり」の手法を学びました。その後、班ごとにテーマを決め、地図を作成しました。大学の新生向用に、駅からキャンパスまで安全に通行できる交通地図や、宇都宮駅の西側の若者向けスポットの紹介など、様々な視点やスケールの地図ができあがりました。全体共有の時間だけでは足りないほど興味深いものでした。受講者は、自分の知っている「まち」や「地域」について改めて考える機会になり、地域に働きかける手法の一つを学んだようです。



* 受講者の感想より *

- 準備や情報共有の大切さを学んだ。
- 「社会教育」について考えることができた。この経験を実践していきたい。
- 地図上に伝えたいことを入れることで、ひと目でわかるようになって、言葉や文で説明するよりもわかりやすく聞きやすいことがわかった。
- 自分だけの考えだと限られてしまうので、他人の意見も聞くことで、新しい視点や違った見方をすることができ、ディスカッションはすごく大切だと思った。
- 実際の地域行事などで、多くの人と関わりたい。
- 普段関わることのない高校生と一緒に活動できて楽しかった。自分と立場が違う人と協力することの難しさ、やりがいを感じられて、今後の自分の糧になると思った。
- 今回の研修での経験は、現在、関わっている子どもたちへのボランティア活動などで、実践していきたい。
- 将来、子どもたちと関わる仕事に就きたいと考えているので、今回の経験は貴重だった。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは、栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp